

むなかた タウンプレス

宗像市公式ホームページアドレス
<http://www.city.munakata.lg.jp/>
メールアドレス
koho@city.munakata.fukuoka.jp

発行：宗像市 〒811-3492 福岡県宗像市東郷 1-1-1
代表：総務課 ☎0940-36-1121 FAX 0940-37-1242
編集：情報政策課広報編集係
☎0940-36-1055 FAX 0940-34-2002

毎月1日・15日発行

今月の紙面から

平成23年4月15日号

みんなで登録して災害に備えよう！ 緊急情報伝達システムの運用を開始	2~3
沖ノ島や古墳の価値を再認識 平成22年度の活動を振り返る、「世界遺産への道」	8~9
私のからだ、がんから守ろう！ 子宮頸がん予防を考える、「健康むなかた21」	18
みなさんの意見をさらに反映していきます、「協働のまちづくり」	5
ルールを守ってごみを出そう、「みんなで3R」	6
友だち100冊つくるんだ、「としよかんへ行こう」	7
独自の祭祀を形成 大島御嶽山遺跡、「ぶんかざい」	10
男女共同参画推進センター啓発講座を開催、「メッセージ」	11
株式会社債・外国通貨などの投資の勧誘電話、「転ばぬ先の杖」	17

1~4	5・17	6	7~10	11	12	13~17	18
行政	市民協働	環境	学びの里	男女共同参画	カレンダー	お知らせ	健康・福祉



宗像市にできること 被災地の復興を願う

東北地方太平洋沖で3月11日に発生した地震による甚大な被害。市では、義援金箱の設置や救援物資を現地へ送るなど、被災地の復興を願う活動に取り組んでいます。

生活安全課 ☎(36) 5050

義援金箱を 設置しています

市民のみなさんの協力をお願いします。

●設置場所

東北地方を中心に3月11日午後、マグニチュード9.0の強い地震が発生し、多くの犠牲者や被害が出ています。市では、地震・津波被害に対する支援として、市役所や各地区コミュニティ・センターなどに募金箱を設置

救援物資を 福島県田村市へ

市では、宮若市と共に、トヨタ自動車九州株式会社「宮若市・宗像市及びトヨタ自動車九州株式会社」の連携協力に関する協定」を締結しています。



救援物資をトラックに積み込む職員

今回は、連携協定に基づき、トヨタ自動車(株)の関連会



田村市へ送るために集められた救援物資

社がある福島県田村市へ3月17日、救援物資を送りました。

田村市は、福島第一原発から約40キロの位置にあり、トヨタ自動車(株)の関連会社でも避難者の受け入れをしています。送った救援物資は、水や米、カップラーメン、乾電池、毛布など。市職員からの提供や災害用として市役所に備蓄されていたものです。

救援物資は同18日に現地へ到着。放射能汚染の風評被害が広がり、田村市への物資が届かないなか、物資輸送のトラックが田村市役所の玄関まで来てくれたということ。田村市職員で荷物を運んだそうです。多くの物資に、田村市からも感謝の言葉が届きました。

市で被災者を 受け入れ

市では、津波で家が流された人や放射能からの避難者で、住む家がなくなくなった人の受入支援策として、次のような取り組みを開始しました。

- ▽民間アパートなど20戸を確保し、避難住宅として提供
- ▽ホームステイ、里親、受入家庭の募集
- ▽中高生の集団受入
- ▽その他の生活支援

宗像地区 消防本部隊員を 被災地へ派遣

被災地を救援する緊急消防援助隊の福岡県隊として、宗像地区消防本部から7人の隊員が3月14日、被災地の宮城県亶理郡山元町(※1)へ出発しました。

たにいいプログ・フォト日記

広報紙15日号で毎月、市ホームページ=<http://www.city.munakata.lg.jp/>に掲載している市長ブログを紹介しています。
■問い合わせ先 秘書課 ☎(36)0890



3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震による多くの被災者に対して、宗像市でも支援に動いています。

同16日(水)、鐘崎ふく延縄(はえなわ)船団の中村忠彦船団長から、同26日(土)に開催予定だった「ふく供養祭」の費用や募金などで集めた義援金を預かりました。

同船団は、延縄に使用するエサに被災地の東北地方で捕れたサンマや沖あみを使用しているそう。中村船団長は、「同じ海で働く仲間として少しでも復興に役立てれば」と話していました。

また、同16日(水)の同31日(木)の間に、宗像市緑化協会、宗像タクシー協会、須恵区、ムツ

シュ・クッキングクラブ、財団法人サンックススポーツ振興財団、株式会社グローバルアリーナ、回生病院第一病棟、宗像大社、宗像大社女子会、地島小学校、玄海東小学校、宗像球友ボーイズ、天照神院、ひかりヶ丘区自治会、宗像高校、東海大学付属第五高校、宗像建設協会、大島地区コミュニティ運営協議会、株式会社まちづくり宗像や多くの市民のみなさんから、総額約1500万円の義援金をお預かりしました。

みなさんの温かい気持ちに感謝を申し上げます。ともに、今後とも被災地への支援にご協力をお願いします。

出発式で乙藤富雄消防長が、「自分の身の安全を確保しつつ、被災地の

行方不明者の捜索、救助に全力を挙げて努めてください」と隊員たちを激励。隊員たちは、緊張感の中にも使命感をみなぎらせていました。

今回、宗像地区消防本部から被災地へ派遣されたのは、消防隊員4人と救急隊員3人の計7人。消防車と救急車の各1台に分乗し、集合場所の九州高速道路・めかりパーキングエリアへ出発。福岡県消防防災課から

の要請で県内各地から参集した福岡県隊(51部隊168人)が、陸路で山元町へ向かいました。現地で懸命に生存者の捜索に尽力した援助隊のみなさんは、同21日に帰福しました。

(※1) 仙台空港から南へ約15キロにある町。今回の地震で震度6弱を観測し、多くの被害が出ました

■問い合わせ先
宗像地区消防本部
☎(36) 2425



被災地へ向けて出発する宗像地区消防本部の隊員